

觀 蕃
放 山
生 先
會 生
記 和
歌

檜 飛
垣 驛
寺 山
古 瓦
記

五

1013
#30
(45)

198221

群馬県立
図書館



K093
F30
(45)



蕃山先生和歌

蕃山先生和歌

附先生保侶巖之圖

熊澤伯純 著



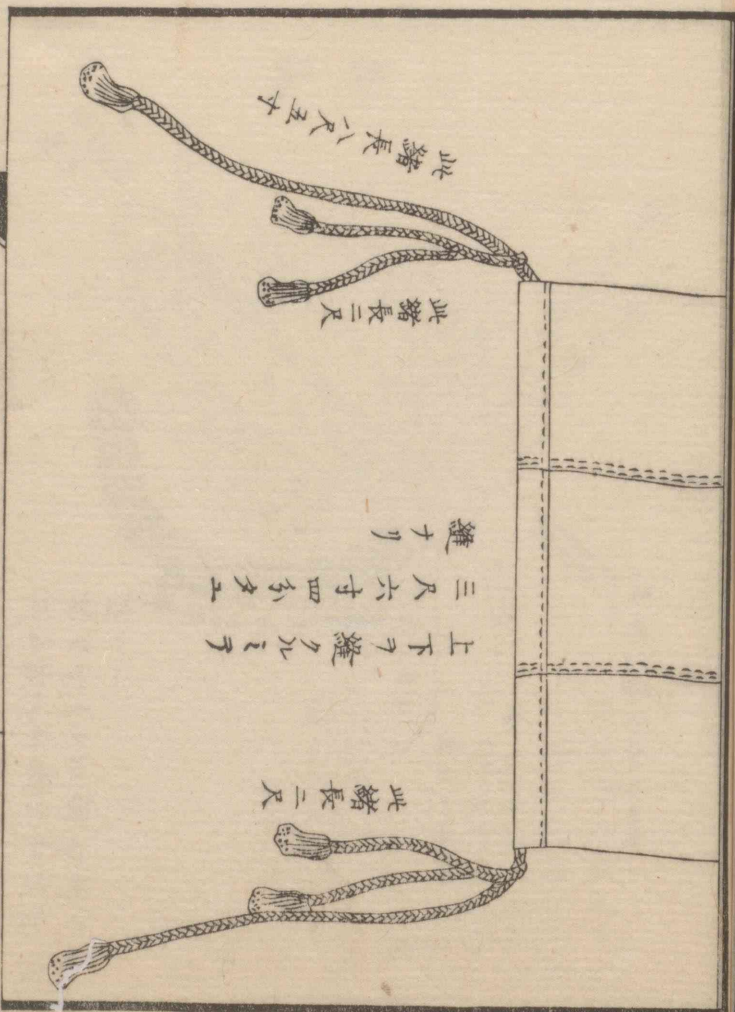
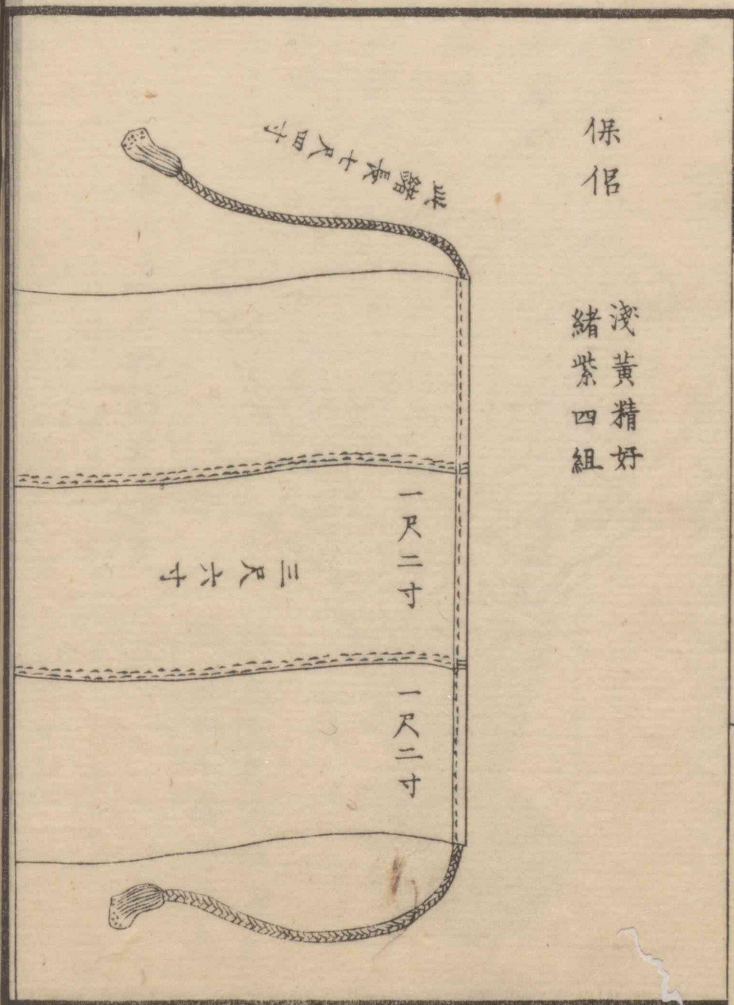
寛文七年の年 吉野山

同申の 字

寒中の梅 花

保侶

淺黃精好
緒紫四組



上下ヲ縫クルニ
三尺六寸四分クニ
縫ナリ

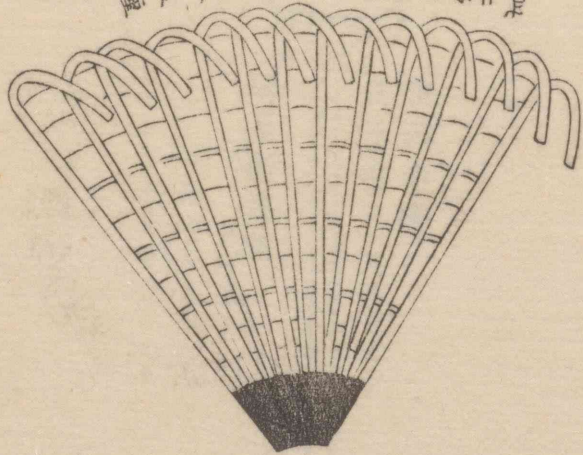
此緒長二尺

此緒長二尺

此緒長八尺五寸

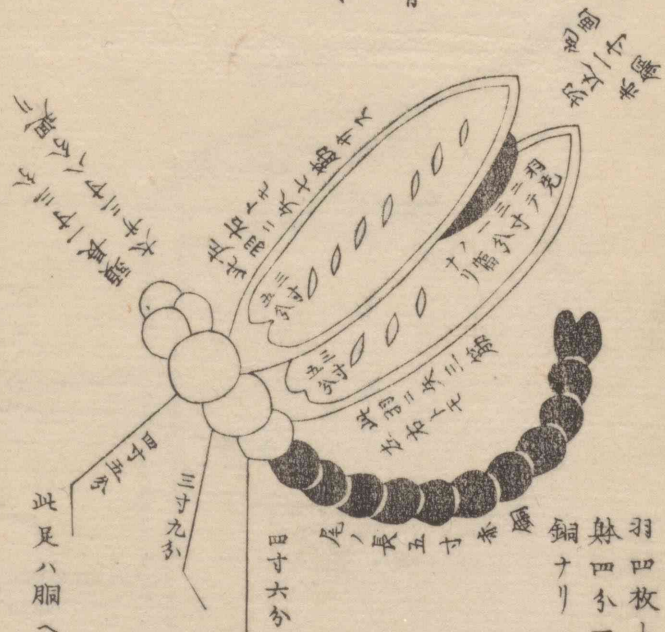
保 侶 串

此ニテ半長一尺七寸三分五厘



保 侶 串 ハ 鯨 ニ テ 造
リ 金 タ メ 塗 ナ リ 其
數 十 三 本 長 二 尺 五
寸 横 ニ 三 本 サ レ 口
夕 シ テ 其 上 ニ テ 前
ヘ タ ワ リ ム 串 ニ 此 ラ
ア ケ テ 紅 ノ 糸 ニ テ
縫 ナ リ

蜻 蛉



此尾八脚へ付ルナリ

此ニノ足竿
ハ付ルナリ

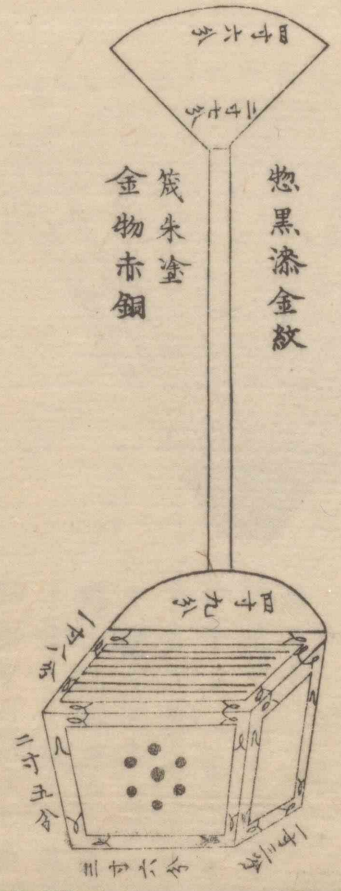
羽 四 枚 ト モ 長 六 寸 六 分 全
身 四 分 一 二 テ 造 ル 尾 ハ 赤
銅 ナ リ

十 月 二 日 書 別 角

二

保 侶 串 之 圖
七

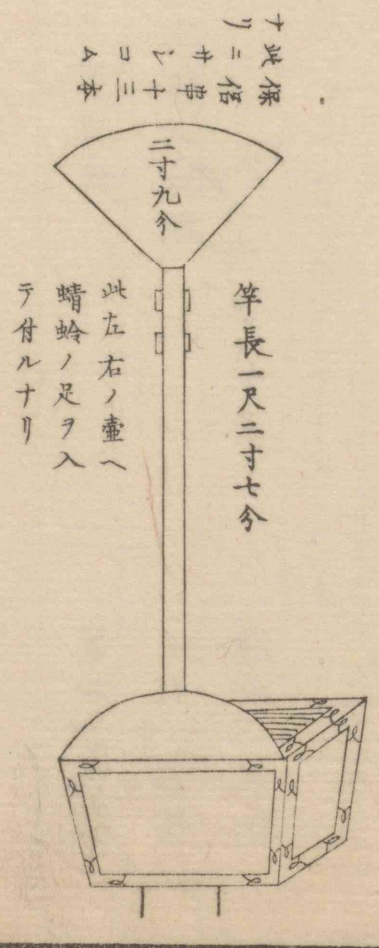
箴前



惣黒漆金紋

箴朱塗
金物赤銅

箴後



竿長一尺二寸七分

此左右ノ壺へ
蜻蛉ノ足ヲ入
テ付ルナリ

箱ノ底ニ蝕ノ足ニ本
アリ長二寸是ハ胴へ
付ル料

十
尺
九
寸
二
寸
九
分
二
寸
九
分
二
寸
九
分

安永九年庚子九月二十三日

謹寫於

三輪社神殿

草加親賢

石川恭信

横田純熙

右保侶巖ハ蕃山先生熊澤了叡納三輪社巖の紋七星ハ熊澤

氏の紋ハ世々大塔宮の紋ハ非ハ草加親賢の子

定濃宗楯師の紋ハ官ハ動ハのハ

天明改元中秋

南畝子

心禪山

飛騨山

物茂卿 著

飛騨の山中に松竹ありて
 一木もたはらぬて
 或る楓師のやうに
 思ふはたかきと
 せん
 り
 け

祝言寺とあり又ひつとハ吉祥寺と名づけしを
 寺地を納りて吉祥寺の傍ハ心大をてり
 地をひらてり其寺後ハ宗の三々の寺とてり
 祝言寺のありハ膝をいひてり其
 時ハ法師をいひてり其寺のありハ今
 の世に

寛永の頃ハやあし上流の國出和甲ハ舟のつ
 西洋の國王の娘宮の御の國ハ
 舟のつち風をいひてり我國乃瀛

るありて舟のつち有るはハ
 人をいひてり長崎ハ
 了の國ハ波をいひてり乃
 室をいひてりハ綾羅錦繡の沙
 うめをいひてり田川の紅葉ハ
 衣其をいひてり今ハ世
 其の傍のり掃てり其の通
 其の傍のり掃てり其の通
 其の傍のり掃てり其の通

くの盒子やうの物のあはれありたりしやとていふは
 の室の舟ふらん人のび酒うつこころをまゝの人のけ
 りていへば詠うそいひていふはまは物ハ人
 つひにのちうら半のくちやあんなのゆきとて
 物ありてをせそふくはれりて取うてかへりて
 まんてあひく水の因りてあひてて持てて見度人ハ伊
 とて和室の園まはなむいふあはれとてはまは志
 毎にあはれ今何れも真のおくふりてをりて
 うまのしくもあはれいふあはれをまはれをりて又わん
 すいりてあはれ詠清いりて島のめくひりて時を能
 らぬとていふたをて石のやひついでいふの勢とて浦中
 とてあはれいりて園の可なりあはれあはれあはれいりて
 波ゆれ沈むいりていりてあはれいりていりてあはれ
 人まはれいりてあはれいりていりていりていりてあはれ
 あはれいりてあはれいりていりていりていりてあはれ又西洋の
 人のあはれいりてあはれいりていりていりていりてあはれ
 まはれいりてあはれいりていりていりていりてあはれ
 めへいりてあはれいりていりていりていりてあはれ

ちうの目見とてあつて又あつての如くは城
 第なるを多しとて錦の内をさぐりては
 水々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 内堀伊豆と云ふは近江の國の信ありては
 國ありて南部の家ありて領知百ありては
 東井通とての事ありては是れより
 年老く後ありてはゆつてはあつては信ありては
 方よりゆつてはゆつてはゆつてはゆつては
 何れゆつてはゆつてはゆつてはゆつては

けいありてはゆつてはゆつてはゆつては
 池ありてはゆつてはゆつてはゆつては
 一里ありてはゆつてはゆつてはゆつては
 信ありてはゆつてはゆつてはゆつては
 何れゆつてはゆつてはゆつてはゆつては
 大いありてはゆつてはゆつてはゆつては
 方ありてはゆつてはゆつてはゆつては
 何れゆつてはゆつてはゆつてはゆつては

後

柏原天白

足利義澄人

元カズ一人

車



ずんずんおのゝ風のあきまへにそよ風のめいそをさす
 ずれに何やそよ風のの振をさすのつたあつ
 ささきやまをさすのの目のまへのおまへをさす
 うさか伊豆のまのころはさすのまのまをさす
 すんぬれにハせんをさすのまのまをさす
 めとんりて目をと又ありをさすのまのまをさす
 おまへにハ足のまのまをさすのまのまをさす
 せんをさす何やあハ我をさすのまのまをさす
 せんをさす何やあハ我をさすのまのまをさす

えりやのまをさすのまのまをさすのまのまをさす
 えりやのまをさすのまのまをさすのまのまをさす
 あハ刀をぬきそ結ぬきあつちのまのまをさす
 ささきやまをさすのまのまをさすのまのまをさす
 うさか伊豆のまのまをさすのまのまをさす
 すんぬれにハせんをさすのまのまをさす
 めとんりて目をと又ありをさすのまのまをさす
 おまへにハ足のまのまをさすのまのまをさす
 せんをさす何やあハ我をさすのまのまをさす
 せんをさす何やあハ我をさすのまのまをさす

親叔生云記

飛驒山終

甘雨亭叢書別集

十七年

觀放生會記

太宰純 著

年以の形ひくハ肺の放生會とせんことひナク清水の
の正法寺ノ頭普上人とハハツキと云ふ事ありてハハツキ
根のさやひく所ある事と云ふ事あり八月十四日の末の明り
の事と云ふ事あり五條より高瀬舟にけりて申のや
りぬあて舟よりわたりて岸のけりて舟よりあて休て
又あて舟よりいへて渡川をたゞ日の入るに狐川にけりて
岸のけりてあて舟より御旅所のけりてあて舟のあて舟より

松垣寺志風記

觀放生會記終

松垣寺志風記
卷之七
放生會記終

檜垣寺古尾記

版部元喬 著

ひさきのむらじの... 後撰集大和物語...
りけ... 寺...
ひ... 朝...
...
...
...

るきいたる... 白川の... 七代古の... 魁

寶曆八年

七代古の 魁

この... 肥後... 先主... 仲英... 香山... 文化四年丁卯四月小書



群馬県立図書館



0295133-3